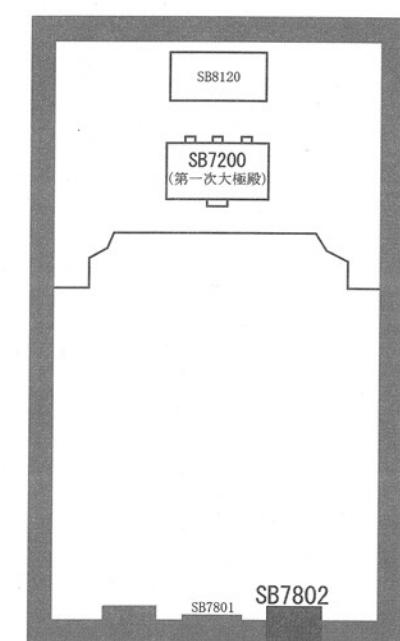


一九七七年以前出土の木簡 (一一一)

1977年以前出土の木簡

1	所在地	奈良市佐紀町
2	調査期間	第七七次調査 一九七三年（昭48）一月～四月
3	発掘機関	奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
4	調査担当者	代表 坪井清足
5	遺跡の種類	都城跡
6	遺跡の年代	奈良時代
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	査面積は四一二〇m ² である。



第一次大極殿院概念図

○にとりつくように建てられた五間×三間で総柱の東西棟建物である。総柱のうち側柱を掘立柱、内部の柱を礎石建ちとする。掘立柱掘形は、三・五×二・五m、深さ一・七五mという超大型のものであり、柱自身も出土した柱根は径七五cmという宮内最大のものである。SB七八〇二は、層位および木簡などから、第一次大極殿院の最初の改修時（I_b期）から天平勝宝五年まで存在したと考えられる。一五箇所ある柱穴の内、一二箇所から計二四（うち削り屑一五

八、大極殿院南門SB七八〇一、大極殿院南面築地回廊SC五六〇〇、樓閣建物SB七八〇一、東西溝SD五五九〇などである。

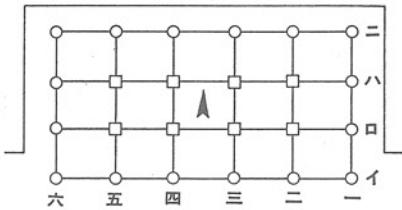
木簡は樓閣建物SB七八〇二の柱抜取穴から出土した。SB七八〇一はI期の大極殿院南門SB七八〇一の東側、南築地SC五六〇

(2) 「答志郷奈豆米」
〔斤カ〕

樓閣建物SB七八〇一柱抜取り 口四

(3) 殿守一升 「之国庭カ」
〔口口口〕 英田郡国口肥後国口

合志郡〔鳥嶋カ〕余口口口口口口
」



東塔 SB7802 柱穴番付図
(○は掘立柱、□は礎石建ち)

柱	出土点数 (うち削屑)	ハ6	1 (0)
イ1	7 (2)	ニ1	10 (0)
イ4	16 (5)	ニ4	23 (3)
イ5	2 (0)	ニ5	50 (27)
イ6	1 (0)	ニ6	121 (113)
口1	4 (0)	不明	2 (2)
口6	5 (3)	計	242 (155)

東塔 SB7802 柱穴別木簡出土点数一覧

五) 点が出土した。建物の廃絶にともない一括して投棄されたものと考えられる。柱の番付は東南を基点に、北ヘイからニ、西に一から六とした。

この他、木簡状木製品が一二点出土している。

8 木簡の积文・内容

樓閣建物SB七八〇一柱抜取り イ一

(1) 應修理正倉口

右 肥後国 山鹿郡
妙 法 蓮 華

(87)×24×3 081*

(6) 「伊豆国田方郡棄妾郷戸主春」
〔斤カ〕

樓閣建物SB七八〇一柱抜取り 口一

(5) 「馬甘赤

(56)×15×5 019

樓閣建物SB七八〇一柱抜取り イ六
「右家五」
(64)×17×3 039

樓閣建物SB七八〇一柱抜取り 口一
英田郡口肥後国口
〔斤カ〕

(334+86+217)×(35)×4 081

- | | |
|--|------------------|
| (14) · 大殿守四人 | 215×13×8 011 |
| (15) · 「玉□鳥島 □□ | (68)×8×2 081 |
| (16) 「牛養 金麻呂 東 | (108)×17×3 019 |
| (17) □月廿七日付牛廿 | (51)×20×3 019 |
| (18) 「▽丹後国竹野郡木津郷紫守部与曾布五斗▽」 | 250×30×8 031 |
| (19) 進上 <small>〔郷力〕</small> 米六斗□□ | (111)×(14)×6 081 |
| (20) 「物部虫万呂物部人万呂物 | (272)×(22)×4 081 |
| (21) · 「天平勝寶□年□月廿二日合 | 250×30×8 031 |
| 丸子豊宅丸子豊額丸子友注丸子友依 | 250×30×8 031 |
| 丸子 | 250×30×8 031 |
| (22) · 「丸 <small>〔文力〕</small> 天□□丸子□□子刀十 | 250×30×8 031 |
| 丸子廣宅丸子大田而丸子豊宅宅 | 250×30×8 031 |
| 宅宅宅宅宅 | 250×30×8 031 |
| (23) · 「○義□」 | 250×30×8 031 |
| ・「○□夜」 | 250×30×8 031 |
| 93×32×11 011 | 250×30×8 031 |
| (24) 「▽山□東人▽」 | 250×30×8 031 |
| 〔代カ〕 | 250×30×8 031 |
| (25) 「□遣如件□以状□」 | 250×30×8 031 |
| (26) 「大殿所四人 | 250×30×8 031 |
| 右五人 | 250×30×8 031 |
| (27) 「留散位石村角」 | 250×30×8 031 |

- (22) 「▽田下部土麻呂」 (88)×23×3 039 (31) □
- (23) ×□久米郡衛士養物錢六百文 (153)×19×4 059 (32) ×年正月廿八日
- (24) 都々美 (83)×(13)×2 081 (33) 春部氣万呂
- (25) □万呂 (230)×22×5 081 (34) □□□□□ (裏面天地逆)
- (26) 樓閣建物98七八〇一柱抜取り 二五 (27) □□□□解申□□□□□□□ (35) □ 日下部久治良□
- 矢祢万呂所欲処珠女 □□□□□□□ (36) □詰 □□□ □
- (37) 「▽縣馬養 (148)×23×2 081 (38) □
- （763）×（12）×2 081 (39) 「▽湯坐連野守 ▽」 (156)×16×7 039 (40) 「▽衛門府」 (140)×(22)×2 081
- （107）×13×4 019 (41) 日久米□□ (42) 進衣 (105)×24×4 019
- 五人 常食□□廿五日 (43) ▽喻 (44) 昨万呂 □ (100)×16×4 039
- （177）×29×4 019 (45) ▽喻 (46) □廣 (83)×6×2 081
- 牛甘 真足 廣道 大食 (47) 「合四人」 (48) 荒嶋 合一人 (49) 「▽大麻□續 (50) 勝寶五年正月 (51) 大□麻

出土した木簡は衛門府との関連性が強い。SB七八〇一の近くに

衛門府関係の施設があつたと考へられ、衛門府の守衛する対象は大極殿院南門SB七八〇一であろう。(43)には、「授刀所」という記載も見られ、衛門府の下部組織である可能性もある。常食の請求に関する木簡が出土しているが、そこでは氏ではなく名前が記載される傾向があり、衛門府所轄ということから門部の常食請求であろう。

また、貢進物の荷札木簡が少ないこと、個人名のみを記した木簡が見られること、削屑も多く出土し、その中では(37)(46)(47)などのように個人名を抹消したものが目立つことも特徴的である。木簡による活発な業務活動が行なわれていたことを窺わせる。

その他、天平勝宝五年（七五三）の記載をもつ断簡^{〔30〕}や、同年六月には改姓される丸子氏の一族名とかかわるとみられる習書簡^{〔21〕}などから、SB七八〇二の廃絶は天平勝宝五年の前半とすることがで
きよう。

9 關係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九七三』

(一九七四年)

同『平城宮發掘調査出土木簡概報』九（一九七三年）
同『平城宮發掘調査報告』XI（一九八一年）

(馬場基)